

教育学 専攻 領域（博士前期）

試験科目：第 外国語（ 英語 ） / 専門科目（ ）

設問の指示に従い、大意は、文章の主張・根拠・展開を正確に把握したうえで、論理的にまとめること。和訳は、文脈に即して語句・構文の意味を正確に捉えて表現すること。意見論述は、明確な主張を示し、具体例・根拠・論理を用いて一貫した構成で説得的に展開すること。

教育学 専攻 領域（博士前期）

試験科目：第 外国語（日本語） / 専門科目（ ）

**【問題1】**

日本の幼児教育は幼稚園と保育所とに制度的に二元化されている。近年、少子化の進行や共働き家庭の一般化に伴う保育ニーズの多様化を背景に、幼保一体化施設として「幼保連携型認定こども園」が規定された（2015年4月施行）。しかし、それは幼保の一元化ではなく、第3の幼保一体化施設として運営されるものであり、課題も多い。

日本では幼稚園が中上流層の幼児の教育施設として成立し、その後、労働者層の幼児の保育施設として保育所が成立するという歴史的経緯の中で幼保の二元化が起こり、今日まで引き継がれているが、世界の幼児教育に目を向ければ、幼稚園と保育所が二元化している国は多くない。日本でも大正15年の幼稚園令では幼保の一元化が企図されていた。財政的保障がなされず、実現には至らなかったが、そうした歴史から今日の幼保一体化の動きを見るならば、それはゴールではなく、幼保一元化に向けての過渡的な位置にあるといえよう。

**【問題2】**

ドイツでは労働者や貧民を対象とする民衆幼稚園が普及し、児童福祉施設として制度化された。他方、アメリカでは公立幼稚園が普及し、公立学校制度と結びついて、すべての幼児を対象とする教育施設となった。これに対して、日本の幼稚園は保護的な側面を欠いたまま中上流層の幼児を対象とする教育施設として成立し、就学前教育機関として学校的な性格を色濃く持つものとなった。

**【問題3】**

幼稚園令では、資本主義の発達に伴う階層分化の進行、女性労働者の増大と幼児保護の問題、さらに第一次大戦後の不況による労働者の困窮と労働争議の頻発という社会状況に対応するために、従前の中上流層の幼児を対象とする幼稚園を社会政策的な見地から労働者層の幼児をも対象とするものに改編し、幼稚園への保育の一元化を図ろうとした。

**【問題4】**

幼保一元化が文部科学管轄の幼稚園と厚生労働省管轄の保育所の制度の統一を指すのに対して、幼保一体化は幼稚園と保育所という管轄の異なる教育・保育施設の関係を密接なものとし、その運用を弾力的、一体的に進めることをいう。

教育学 専攻 領域（博士前期）

試験科目：第 外国語（ ） / 専門科目（ 教育学共通問題 ）

DE&Iについて、教育における多様性とは何であり、それを公正に包摂するとはどういうことか、具体的にどのような課題があるかについて、それぞれの学問的立場や専門領域の観点から言及しており、自身の考えを明確に述べていることが求められる。

教育学 専攻 領域（博士前期）

試験科目：第 外国語（ ） / 専門科目（ 教育哲学 ）

（1）「世界市民の教育」と「国民教育」の概念整理が的確になされていること。教育哲学の理論を用いて両者の関係性が論じられていること（例：カントの世界市民的視野、デューイの民主主義教育論、アーレントの公共性論、グローバル正義論など）。特定の理論を援用しつつ、どちらか一方の否定ではなく、両者をどのように統合的に位置づけ得るかが示されていること。

（2）「人格の完成」という概念の定義が明確になされていること。教育哲学的視点（自律、自由、他者との関係性、公共性など）を入れて、自らの立場が論じられていること。人格の完成が、現代の教育にとってどのような意義をもつかが示されていること。

試験科目：第 外国語（ ） / 専門科目（ 日本教育史 ）

## 【問題1】

江戸時代の庶民の教育機関である寺子屋を描いた図である。

寺子屋は一般庶民の子弟を対象に、読み、書き、算盤といった初歩的実用的な知識を授ける私的教育機関であり、日常の生産活動、商業活動を営む上で必要不可欠な知識・技能を習得する場であった。教科書にはそれぞれの職業に応じた「往来物」が用いられ、教育方法としては、「手習い」という方法がとられた。手習うことを通して、読むことを学び、手習い・読むことによって文字が媒介する様々な知識から教訓に至るまで、庶民の子どもが必要とする諸々の事柄の習得が目指された。

## 【問題2】

大正新教育運動は欧米の新教育学説や新教育思想の影響を受けて展開されたもので、そこには旧来の注入主義に対する批判、子どもの個性と自発性の尊重、作業主義の強調などが特徴としてみられた。

新教育の実践校として著名な小学校には私立の成城小学校や池袋児童の村小学校があり、成城小学校では1クラス30人以下の少数主義を柱に学習条件の整備を行い、また、パーカストのドルトン・プランを導入して、個性を重視する教育を行った。池袋児童の村小学校では、子どもたちが自分自身の生活を創造していく自立や自治による「生活学校」が目指されており、「生活することが教育」という立場で、子どもの興味・関心のある全てが学習の題材とされた。

一方、師範学校附属小学校でも新教育が実践された。明石女子師範学校附属小学校での及川平治の分団式動的教育法や奈良女子高等師範学校での木下竹次の合科学習、東京女子高等師範学校附属小学校での北沢種一の作業教育、千葉師範学校附属小学校での手塚岸衛の自由教育などの実践は、各地の公立小学校の教育に大きな影響を及ぼした。

このように、大正新教育運動は、日本の公教育においてはじめて「子ども中心」で教育が考えられ、多くの優れた実践が生み出された。しかし、昭和期に入ると、新教育は天皇制公教育に反するものとして行政当局の危険視するところとなり、その多くが初志を貫徹することができずに終焉を迎えた。

教育学 専攻 領域（博士前期）

試験科目：第 外国語（ ） / 専門科目（ 教育方法学 ）

授業の質を把握し、論評することを巡って、子どもの学びの経験、ないしは、教師の教授行為や意思決定について、国内外の授業研究の動向や特定の理論的立場、具体的な授業分析の事例、あるいは教師教育における議論等のいずれかについて言及し、自身の考えを明確に述べていることが求められる。

教育学 専攻 領域（博士前期）

試験科目：第 外国語（ ） / 専門科目（ 学校教育学 ）

（1）日本または西洋の文脈で、「子ども中心の教育」と「学問中心の教育」の系譜についてその理論や歴史を適切に理解して記述することができること。両者の対立をどのように克服するかという点について、自分の考えを的確に論述することができること。

（2）コンピテンシーを基盤とする教育のあり方からエージェンシーを重視する教育への動向についての的確な論述が展開されていること。エージェンシーの教育について、主体性や社会変革を担う行為主体の文脈から日本の学校教育における展開可能性を論じることができること。

教育学 専攻 領域（博士前期）

試験科目：第 外国語（ ） / 専門科目（ 教育社会学 ）

(1) 指導上の今日的課題を1つ取り上げて、その実情やそれを取り巻く社会的背景について、教育社会学の理論や概念を用いて論理的、分析的に記述されていること。

(2) 高等教育の社会的役割について、教育社会学上の知識から適切に導き出した論述を提示し、それを教育社会学の理論や概念を適切に用いて記述されていること。

教育学 専攻 領域（博士前期）

試験科目：第 外国語（ ） / 専門科目（国際教育開発学）

小論文は、主張を明確に示し、それを根拠や事例、論理的な説明によって説得的に支えることが求められる。

教育学 専攻 領域（博士前期）

試験科目：第 外国語（ ） / 専門科目（ 比較国際教育学 ）

本問題では、持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development: ESD）の実践をささえるロードマップに言及し、そこで示された5つの柱とwhole institute approachがどのような意味をもつか、また課題を持っているかについて説明を求めるものである。ユネスコが2020年に発表したESDのロードマップにおいては、優先的行動分野として、政策の推進、学習環境の変革、教育者の能力強化、若者のエンパワーメントと参画促進、地域レベルでの行動加速の5点があげられている。このうち、学習環境の変革としてあげられているのがwhole institute approachである。解答では、1）この点に触れるとともに、2）ESD実践をおこなっている教育機関をとりあげ、特に機関運営のガバナンスやESDを実践するカリキュラム・デザインやその運営について、どのような工夫がなされているか、さらに、3）それを実施する場合にどのような課題があるかについて言及することが求められる。